

玉縄城 まちだより

発行者：玉縄城址まちづくり会議 荒井 章 TEL&FAX 0467-45-7411
http://www48.tok2.com/home/tamanawajyo



黄色の絹布に黒文字で「八幡」
「勝ったぞ！勝ったぞ！」戦場を
駆け回って味方を鼓舞し、敵に恐
れられた三代玉縄城主北条綱成
の旗差物「黄八幡」を復元しました。

「玉縄城500年祭」市の実施計画に 市長、当会の要望書に回答

鎌倉市長は8月28日、当会
が提出した玉縄城500年祭と
玉縄城址公園など記念事業の
推進を求める要望書に対して
市民による500年祭を鎌倉市
がサポートする。公園化を前提
とする玉縄城址周辺七曲坂の整
備を行政が担う重要な課題と
する。また地権者の意向を尊重
し「市民緑地」の制度活用を検討
も進める。更に玉縄城大手門、
太鼓やぐらなどの復元、映像に
よる復元構想も前向きに考慮す
る」と回答しました。基本的に当
会の要望が受け入れられたのです。
また、10月21日、市長は、
玉縄のまちかどトークの対話で
「玉縄城500年祭を実施計画
のロケに組み入れる。これ
で玉縄のまちづくりに弾みをつ
けたい」と公式に表明しました。

「対等の当事者として」
話し合いの先に必ず道はある
常識の裏側に突破口がある」

次「やるべきこと」

10月22日、当会は早速、
市経営企画部と協議、500年
祭と記念事業の何を「どのよ
うに」の具体策に「これから協働
で取り組む」ことを確認しました。
市民の思いと行政の条件には
大きな開きが予想されます。
これをどこまで埋められるか
ここが難しい課題になります。

神奈川県にも協働申入れ

しかし当会には楽天的な信念
があります。

このやりかたで今後も「協働」
の問題解決に臨みます。
市長、教育長との協議、
経営企画部との月例協議、景
観部みどり課、都市整備部、
文化財課とも連携を積み重
ねます。またこの「協働方式」
については県にも提案してお
り、玉縄のまちづくりのために
市民、鎌倉市、神奈川県の三
者協働の実現をめざします。

基本は自力事業

まちづくりは決して人任せ
にはできません。基本は市民
の自力事業です。崩壊寸前の
ランドマーク「玉縄城」を
復活させるための、歴史の道
の美化整備も縄張り測量も、
城址復元のシオラマパノラマ
CG映像制作も、その発想、
デザインから実制作まで、
私たちは可能な限り自力でや
りたい。その上でこそ、行政と
の協働をめざします。

玉縄を再発見する

もう一つ、私たちは玉縄の
足元を見つめたい。調べれば
調べるほど玉縄の自然や歴史
には深さと魅力があり、それ
を玉縄の再発見事業として
構築します。

甦れ！玉縄城

技術集団募集

玉縄の歴史 生態系再発見
セミナー、探索会をさらに充
実させること、また市長教育
長の要請に答えた「がまくら
子ども風土記」玉縄版の記述
提案を行ったことなどもその
一環です。

玉縄城址まちづくり会議で
は500年祭準備委員会を開い
て祭典・イベントの発想、記念
事業の計画を進めています。
その開発チームとして、当会
ではデザイナー、コピーライタ
ー、イベント担当者、映像・IT
技術者から土木建築家、会計
士など専門家のボランティアを
募っています。

自由に話し合い一緒に作り
あげる楽しさ、損得抜きで汗を
かく爽快感、まちづくりの達成
感が「報酬」です。

カウントダウン迫る

2012年の玉縄城500年
祭カウントダウン間近です。市
長も言われたように、玉縄のま
ちづくりに弾みをつける500
年祭と記念事業をオール玉縄
の底力で立派に推進しましょ
う。



玉縄思い出写真館



やまこぼし わたりぞめ
大和橋 渡り初め
昭和三十年撮影

【ひと言】
大船駅西口前の
柏尾川に架かる橋
(駅に近い方)が大和
橋です。現在の橋の
一代前の橋の渡り初
めが、昭和30年6月
16日、近隣の一家
三夫婦 を招いて行
われました。近年久
し振りの儀式とのこ
とで、この日は当時の
有名人が多数列席し
ました。松岡県議
議長、山田三之助



県議、三谷光雄市議
会議長等の名前が記
録に残っています。
橋の渡り初めは三世
代の夫婦が揃っている
一家を先頭に行っ
ておりました。
(写真は植木在住の
加藤様から拝借しま
した)

玉縄城500年祭を
語り合う会「開催
何を「このように」を会員
の全員参加で話し合います。
11月15日(土)
15:30~
玉縄学習センター3階
甦れ！玉縄城展」
11月21日~23日
玉縄学習センター2階
七曲坂花壇クラブ「誕生
七曲坂を彩る花壇の草取
りに、お近くの皆様ご参加
ください」
毎月第二木曜日
9:00~ 13:00
連絡先 事務局
0467-457411 荒井
玉縄城復活のシンボル
「黄八幡」旗は、大竹正芳
氏、豊田富美子氏、関根
筆氏の共同制作です。

七曲坂「自然の学校」開校
七曲坂の途中に広場があり
ます。小さな流れには、沢
ガがいて、オオヤマトンボが
産卵に来ます。ここを教室
に玉縄の三小学校の皆さん
を招いて「自然の学校」を
開校します。
1回目は植木小の2年生
に水仙の植え付けをお願い
しました。
日時 1月24日(土)
13:30~15:30
場所 玉縄交流センター
第3回総会
年会費1,200円払込の
ための郵便振替口座番号
002507114824
玉縄城址まちづくり会議
住所・氏名・電話番号を
お忘れなく！

- 「玉縄城址まちづくり会議」の活動
2008年(平成20年)
4/ 5 アダプト・プログラム七曲坂
草取り清掃KCC取材
4/16 市みどり課、まちづくり担当と
七曲坂周辺探索・情報交換
4/20 七曲坂草刈り片付け奉仕
太鼓やぐら周辺縄張り測量
4/25 市景観部長・みどり課長懇談
5/ 2 市経営企画部長、課長補佐
と懇談
5/ 3~9 市広報番組で4/5アダプト
実施の様態を放映
5/18・25 鎌倉FMで当会紹介番組
を2週連続放送
5/20~25NPO10周年記念フェス
ティバルに7メートルパネル展示
で参加
5/24 環境NPO6団体のリレート
ークを主催
5/31 かまくら子ども風土記勉強会
始まる(以後5回開催)
6/ 1 七曲坂草刈り奉仕
6/ 9 「臨時役員会」開催。市長宛
て要望書の内容討議
6/18 七曲坂花の苗植え付け
6/29 歴史セミナー「玉縄北条を考
える」開催 講師伊藤一美氏
7/14 市長に「玉縄城500年祭と
記念事業計画要望書」提出
教育長に「かまくら子ども風土
記」第1回修正案を提出
7/18 NPO鎌倉で「かながわボラ
ンタリー活動推進基金21」の
説明会と相談会に参加
7/19 「ロジマンまつり」展示参加
NPO利用団体懇話会出席
7/24 玉縄地域市長ふれあい懇談
会に参加
7/30 県の緑政課、都市整備公園
課まちづくり班、文化財課と
協働の意見交換、懇談
8/ 8 市の担当及び都市計画課員
と神奈川県「基金21」提出
の協働事業提案書の協議
8/14 「協働事業提案書」神奈川
知事に提出
8/19 玉縄史蹟(首塚)まつり参加
9/ 7 団塊世代プロジェクトへ「甦
れ玉縄城！技術集団募集」
パネル参加
9/ 8 「子ども風土記」改定版を教
育長、教育センター長に提出
9/13 全会員に「活動通信」配布
9/20 「鎌倉パートナーズ」第48
号団体PR欄に当会紹介記事
掲載
9/25 七曲坂花壇クラブ準備会議
9/27 「秋の植木周辺探索会」開催
10/4 歴史セミナー「植木にあった
捕虜収容所」開催 講師平松
晃一氏



“玉縄城の魅力と地域住民の智慧”
伊藤 一美

古い航空写真に目が止まった。中央には「グレイター」のような大きな窪みが見える。その山稜部にははつきりとした道が見えた。窪みの内側にも幾筋もの階段状の区画跡があった。これこそ、「玉縄城」450年後の姿であった。

それからさらに約50年後のいま。主郭部分には、私学が設立されて若き乙女たちの華やかな学園となっている。かつて、そこで教鞭を執っていた知人は生徒たちは学校敷地が昔の城址などとは、最初はほとんど知りません」と言っていた。

小田原北条氏の一門、玉縄北条氏、為昌がその基礎を造った。玉縄領と言われる相模東郡・武蔵久良岐郡、さらには三浦郡、武蔵小机をも

支配していた。以後、養子福島(北条)綱成・氏繁・氏舜・氏勝と5代の玉縄城主たちが居を構えた。

編集注 六代との説もあり)
天正18年(1590)4月、山中城から玉縄へ退去してきた氏勝は、龍宝寺住持良達和尚の仲介によって豊臣秀吉に降伏した。七百騎の城兵も退去し、氏勝は徳川家康のもとに保護された。5月、勢多掃部守生駒主殿正が玉縄城に入る。城下の村から禁制が求められ、地域住民の安全保障を取り付けている。

玉縄城跡には、所謂「破城」の痕跡がみられるといふ。つまり、城郭としての機能は建前上であるが消滅した。元城主の氏勝による降伏と、城兵の退去がその条件であった。しかし、それ以上に大きな要因は、玉縄地域住人への安全保障を獲得することこそ、元城主としての務めであった。つい最近まで「玉縄城址」が地域の中で残されてきたことの意味は、まさにここにあり。

「玉縄城」の魅力は、最後の城主北条氏勝の意志が「地域住民」に向けられていたこと、それをいまに支持してきた「玉縄住民」がいたことだ。住民の支持があるからこそ、地域の城主としての存在意義がある。為政者とは、かくあるべきもの、といふことを「玉縄城址」から学べるのである。

(歴史研究家)

汗かき知恵出し声援で「玉縄城址まちづくり会議」に参加しませんか。お問い合わせはお近くの会員まで

歴史シリーズ3 玉縄城主 北条綱成



三代玉縄城主北条左衛門大夫綱成(はつじょうつなしげ)は、本姓を福島(くしま)と称し、もと今川上総介義忠の宿老で遠州土方の城主であった福島正成(くしままさしげ)の子である。永正十二年(1515)生まれで幼名を勝千代といふ。父正成は、大永元年(1521)12月23日甲州上条河原において武田信虎方の萩原常陸介の武略にかかり、原能登守に討たれてしまった。勝千代(綱成)は家臣に伴われ、小田原に逃げのびた。

その後、二代小田原城主北条氏綱に養育され青年武将となった綱成は、合戦のたびに手柄をたて、氏綱の側近として用いられた。彼は生まれながらにして武道の志が高く、毎月15日には身を浄めて八幡大菩薩に祈っていた。また、朽葉色(くちはいろ、黄色)に染めた四半の練絹に漢字で「八幡」と墨書した旗を自分の差し物としていた。合戦の際にはこれを差して

真っ先に進んだといふ。世の人たちはこの綱成の姿を「地黄八幡(じきはちまん)」と呼び、大剛の勇将であると言いつつ、北条氏綱は養父として自分の綱の字を彼に与え、福島正成の成と合わせて綱成と名乗らせた。そして娘を娶わせ北条一門として、また、二代玉縄城主為昌の後見、城代としてこれをたすけさせたのである。後には為昌の養子となり、天文十一年(1542)5月、為昌の死去に伴い玉縄城の後継者(三代城主)となった。天文十五年(1546)の河越合戦では河越城を守っていた綱成が大活躍し、北条氏の武蔵国進出に道を開いた。綱成は玉縄城主として玉縄衆といふ家臣団を率いて一帯を治めると同時に、小田原北条氏の軍事力の中心としてしばしばその先陣を務め、最前線の城に在城して前線防衛の任を果たした。また三代小田原城主北条氏康の名代として関東や奥州の大名に対する外交手腕も発揮した。天文十七年(1548)には鎮護国家の祈願所として城下岩瀬郷に龜鏡山護国院(現大長寺)を創建。氏康は元龜二年(1571)に世を去り、綱成は元龜四年(1573)に出家「道感」と号し、家督は嫡男康成(のちの氏繁)に譲った。氏綱・氏康・氏政と3代に仕えた綱成は天正十五年(1587)に没す。73歳

インナー～玉縄万華鏡～



(写真提供 霜田繁男さん)



昭和初期

平成20年



今号から玉縄にお住まいの方々にインナーを行ない、ふるさと玉縄への思いをお聞きしてみました。

長屋門で知られる小坂家 小坂勝代さん (こさかかつよさん 植木)

「先祖様はいく頃から当地にお住まいですか
過去帳では、江戸時代初期の慶安三年(1650)に没した人が記録されており、貞宗寺さんの初期の檀家の一軒だったようです。家業は農家で、法要のために田畑を寄進した古文書が残っています。

立派な長屋門が残っていますが、いつ頃の建築なのでしょうか

江戸時代の末期から明治にかけて名主や戸長、代議人を務めた善兵衛(1808～1891)が当主の頃、長屋門を建築したと聞いています。建てられた当時は朱塗りの赤い門で、今でも少しだけその色が残っています。

お嫁入りされてきた頃の玉縄の様子はどうでしたか
縁あって東京から来ましたので、淋しい所だなと(笑)。近くにお店が無く、どこに買い物に行こうかというほどでした。昭和40年代で長屋門の前は田んぼでしたし、近所にも家が数軒しかありませんでした。

七曲坂の畑ではどんな作物を耕作されていましたか



最後にひと言お願いします
山の緑も、長屋門のような建造物も、個人の力で持ちこたえて行くには限界があります。個人のものにしておくよりは、行政の力で、市民の共有の財産として、維持して行ければと考えています。(インナー)

義父が亡くなるまで、じゃがいも・玉ねぎ・なす・きゅうり・そらまめ・絹さや・里いも(おいしかった)などを自家用に作っていました。山際から杉林・茶畑・島の順に土地を利用し一番上の段は茅場(かやば)にしています。家の周りでは茗荷(ふき)・たけのこを、はじめ種々の山菜から葉草までが取れ、お茶や梅・柿の木、山には松・楠もあって、生活に必要なものは一通り屋敷内で済むようになっていました。ちゃんと自給自足できる昔の農家は偉かったなと本当に思います。

成果が現れてきた 七曲坂の美化奉仕活動
平成十九年(2007)3月から始まったこの活動も1年半が経過しました。市の協力も得ながら毎月第一土曜日に、会員や地域の人々の手で、道の草刈りや側溝の手入れをしてきました。今年は活動の成果が現れたのでしょうか、ヒメオドリコソウ・セリ・アザミ・ノギクなどの野草や、葉草のオオバコゲンノショウコ・ドクダミも自生し、可憐な花々が道行く人を楽しませてくれます。そして綺麗になった側溝には、オオヤマトンボの姿も。七曲坂が、野趣に富む道になっていくのが楽しみです。



七曲坂のオオヤマトンボ



七曲坂のゲンノショウコ